

令和元年度

事業所名： はとおかざきグループホーム長寿園

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600286		
法人名	サン・ミルク 株式会社		
事業所名	はとおかざきグループホーム長寿園		
所在地	〒024-0051 北上市鳩岡崎3-32-1		
自己評価作成日	令和元年11月10日	評価結果市町村受理日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に入居者さんの意向を優先にしながら安全安心を第一としています。地域とのつながりを大切に、ぽっぽサロンを月に1回開催し地域の方が集える場を提供している。また近くの保育園児と入居者の方々お互いに行き来をしながら、ふれあいの機会を多く持つようにしています。職員主体ではなく入居者様おひとりおひとりの能力に合わせ出来る事は行ってもらいながら生活の中に役割を感じて頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0390600286-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念とそれに基づく職員の心構えを定め、常に利用者中心の介護サービスを提供するとともに、職員の介護技術の向上を図り、職員会議や統括マネージャーとの面談等を通じてこまめに職員の意見を取り入れ、事業所運営に反映している。また、近隣にある保育所との頻繁な交流事業を通じ、利用者は生き生きとした表情を見せている。特に、職員の意向に応じ、定期的な各種研修の受講を経済的補填を含めて支援するなど、職員意識の向上を図り、更に、医療機関との緊密な連携のもと、利用者の状況に応じた訪問診療や訪問歯科診療を受けられるよう調整や支援を行い、訪問診療を受診する利用者は、24時間かかりつけ医の対応が可能となり、利用者や家族が安心できる体制に繋がっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年11月28日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：はとおかざきグループホーム長寿園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の事業所の「理念」「職員の心構え」を全職員で協議し自分たちの望む理念と考え実践している。玄関や事務所にも掲示、自然と目にし意識付けしやすいようにしている。	企業が運営する3事業所の共通理念を玄関に掲示するとともに、職員会議や朝礼で唱和し実践に繋げている。	理念に基づいた事業所内の具体的な活動目標、或るいは個人目標を定め、年間を通じた実施状況の点検や見直しを図り、年度末に評価して、更に翌年に繋げるようなPDCAサイクルを用いた実践活動の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センターの協力で、地域住民の方を対象に「ぽっぽサロン」を月1回開催し、毎月2、3名の方が参加して下さる。近くの保育園との交流は以前より多くなり散歩途中に遊びに来てくれたり、こちらから伺うこともある。	地域包括支援センターの協力で毎月開催している「ポップサロン」には地域住民2、3名が、地域の集会「フレディ」には職員がそれぞれ相互に参加し、地元住民と交流を図りながら「ポップサロン」活動を紹介している。また、近隣にある保育園とは、遊戯を鑑賞したり運動会の練習を見学に出掛けたり、散歩途中の園児が立ち寄ってくれるなど、笑顔の交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中では毎回認知症の症状や行動、それに対する支援方法などをお話させていただいている。出席者の方も家族や地域の方で同じようなケースがあったと理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、活動状況やヒヤリハットを報告し助言等を頂いている。ご家族にも会議に出席していただくことができた回もあった。今後は会議の内容も検討していく予定。	2か月に1回、自治会長や民生委員、駐在所職員、地域包括支援センター職員、利用者代表等を委員として開催している。活動報告や入居者の様子、事故報告等を行い出席委員との意見交換を行っているほか、会議録を整備し終了後、職員全員で回覧し情報の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定の代行申請や、運営に関してわからないことがあったときは市の担当課へ電話または直接窓口に行き、助言を頂いている。月に1回のぽっぽサロンでは包括支援センターの方にも来ていただき、相談やアドバイスもお聞きしている。	地域包括支援センターの職員が、運営推進会議や「ポップサロン」に参加し、相談しやすい関係が築かれている。また、市主催の集団指導やケアマネジメント会議等にも出席するとともに、要介護認定申請の際には窓口を訪れるなど、業務を通じ相談しやすい関係づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束適正会議を開催し、入居者おひとりおひとりについて支援方法について検討している。「スピーチロック」についての研修会も行い自分たちのケアについて振り返りを行った。施設全体で身体拘束ゼロという意識を持ちながらケアにあたっている。	身体拘束廃止指針を作成し、委員会を2、3か月に1回開催して個別ケースの検討を行っている。また、職員会議終了後には、スピーチロック防止の研修会や動画を活用した研修会など、テーマや方法を選定しながら研修を行っている。帰宅願望のある利用者があるため、玄関や居室の窓にブザーやセンサーを取り付けている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者の虐待未然防止」についての勉強会を行い、事例を通して検討会を行った。虐待を行ってしまった側とされた側の気持ちから防止策までそれぞれ意見を出し合い考える機会を持つことができた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する入居者がいない。必要のある時は制度について学ぶ機会を持ち活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は条文を読んでわかりやすいように丁寧にゆっくりと説明し、話しやすい雰囲気を作り理解して頂きやすいように心がけ、質問や意見などをお聞きしたうえで契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で家族の要望などをお伺いして運営につなげている。家族が遠方に住んでいるため「介護認定の更新手続きを代行で行ってほしい」、「子供が好きなので交流の機会があればお願いしたい」などの要望があった。ご本人からは日用品でほしいものを依頼された際は家族に確認したうえで購入している。	月に1回発行する広報誌と請求書、利用者の様子を「月まとめ」として家族に送付し、面会時や電話等で家族の意向を確認している。「子どもとの関わりを増やして」「編み物が好きだからやらせて」等の意見があり、対応している。利用者の意向もできるだけ運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では職員一人一人から意見要望などを伺っている。月に一度上司との面談日を設け業務上での大変だと感じる事、悩み相談などを率直に伝えてくれている。そこから業務の改善を図り職員が意欲的に働くことができるように努めている。	毎月1回、職員会議や統括マネージャーとの面談を設定して、こまめに職員と会話しながら意向の把握に努めている。また、朝礼時に利用者への対応に関連する意見が出ることが多く、職員で共有して事業所運営に活かしている。職員が各種研修を受講する場合には、シフトを調整し研修費用等を支給するなど、安心して受講できるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務形態はなるべく負担のかからないように考慮し、適正な給与体系、条件の整備、希望休みの配慮、体調不良時の勤務変更など職員が意欲的に健康に働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の基礎研修へ交替で参加ができる機会を確保している。またインターネットでの動画の研修を取り入れ、少しの時間を利用して日常的にスキルアップできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で開催される研修や会議に可能な限り参加し、同業者のケアマネや職員と交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の契約の前には必ずご本人、ご家族との事前面談を行い、状況の把握とともにお互いの関係づくりに努めることで不安なく安心して入居していただくことができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話で家族が困っていることや心配していること、要望についてお話を伺いながら、こちらからの考えなども提案し一方的にならないようお互いに納得したうえで適切なサービスを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どのようなことで困っているか、どのようなサービスを必要としているかをお聞きし必要なサービスの導入につなげている。通院時の薬局での薬の待ち時間が長いという方へ、配達可能な薬局の紹介を行った。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難しいところはお手伝いをしながら出来る事は積極的に行っている。洗濯物干し、たたみ方、食事のお膳を並べる、おやつ作り、カーテンの開け閉めなど日々の生活でできる部分を見出しながらお願いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回グループホームでの様子がわかる広報やお手紙をお出ししたり電話や面会を通してご本人の様子をお知らせしている。定期の通院はご家族様に協力を仰いでいる。必要なものがあるときや衣替えの時期には季節にあった衣類や寝具を持ってきて頂きながら面会の機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者への面会は週に1組程度ある。家族のほか親類や孫、友人、自宅の近隣の方などが来られている。お誕生日の月やお盆、年末などの際には2名の方が自宅へ戻られ外泊された。	利用者の家族や親戚、或いは友人が面会に来ており、これまでの関係性が途切れないよう、その都度、働きかけている。2か月に1回出張訪問してくれる理容師がおり、現在、7名の利用者が整髪をお願いし、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一度お楽しみ会を通し皆さんとおやつを作ったり、誕生日会でお祝いのメッセージを頂くなどし交流を深めている。テーブルの座席の配慮や、普段のレクではカラオケや風船バレーなど自然に会話や関わりができてやすい雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談援助をさせて頂くことと、近くに来られた際には気軽に立ち寄っていただけるようにお話しさせていただいている。特養に移られ退去された方のご家族から、特養での様子などを電話でお聞きすることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族からどのような生活を望んでいるか伺い、できるだけ自分らしく生活ができるように努めている。はっきりと言葉で思いや意思を伝えられない方には、表情や身振り手振りから、また答えやすい声掛けなどで把握に努めている。	ほとんどの利用者が意思表示できることから、言葉や表情、行動を見ながら意向の把握に努めている。特に、献立を作成する際には、お魚、お刺身、野菜天ぷら等の希望を取り入れ、外出では紅葉狩りや花見に行きたい等の意向を聞き取り、利用者の思いを叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や暮らし方を本人、家族、周りの方々からお聴きすることでその方を理解するように努め、今までの生活が継続できるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ある程度の日課はあるが、職員同士で情報を共有しながらご自分の趣味や、ゆっくりお部屋で過ごしたい方、お話を楽しみたい方、作品づくりに夢中になる方など、その方がしたいことができるように自由に過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設での介護計画は入居時と3か月ごとにアセスメント、毎月のモニタリングを行い、見直しと作成を行っている。職員は担当制で、月に一度暮らしの中でよりよい暮らしやケアをするために気付いた点や意見などを聞いている。またご本人やご家族からも意向などをお聞きしながらプランに盛り込むようにしている。	毎月、計画作成担当者がケース担当者に確認しモニタリングを行っている。職員会議でケアカンファレンスを実施し、アセスメントを行い、家族の意向やかかりつけ医の指示を踏まえ、3か月毎にケアプランの見直しを行っている。本年10月からタブレットを導入し、介護記録の効率的かつ確実な記録、保管に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の言動や行動、行ったケアなどを個別に記録し、その場にいなかった職員を含め全員が把握できるようにしている。薬や処置内容、対応方法など記録をもとに周知しケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時にはご家族に連絡し、病院までご一緒にご家族に引継ぎするように努めた。面会に来られない方には日用品などこちらで用意するなどの対応に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの保育園から招待を頂いたときは心身の状態を把握した上で参加させて頂いている。歩行の状態に合わせて行きは車で帰りは歩いてくるなどその時の状況に合わせるなどの対応を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望で訪問診療を5名の方が利用、以前からのかかりつけ医に4名の方が通院されている。どちらも診察前には施設での生活の様子や心身の状況をFAXやデータなどでお伝えし適切な診断ができるようにしている。また、薬剤師などにも情報をお伝えし薬のことで主治医に提案をしていただくこともある。	かかりつけ医の受診には、家族の同行受診を基本としている。受診の際には利用者のバイタル情報等を持参し、受診結果は職員が確認して記録し、事業所内で共有している。5名が訪問診療を2週間に1回受診し、立ち会った職員が「月まとめ」に記入し、家族に情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員から日常での些細な変化など報告をあり、医療機関や看護師に伝えて速やかに適切な処理をしていただいている。入浴の際やバイタル測定時などに心身の観察を行い変化に気を付け、何かあれば電話等で相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には医療機関へグループホームでの生活の様子、身体状況をお伝えするようにしている。退院の際には病院での様子をお聞きしたうえでこちらでの対応方法を検討し、スムーズに施設での生活が始められるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、こちらで出来る事出来ないことを家族にお話しし、今後どの場所でどのように過ごしたいかを相談させていただいている。入居時にも同じようにお話をさせて頂き、その時点での考えをお聞きしている。身体状況が変化した都度主治医にも相談しながらこちらでの可能な対応をご家族と話し合いをもち、重度化しても安心して生活ができる方向で進めている。	事業所で看取り指針を作成し、入居時には、利用者が重度化した場合に事業所で出来る事等を説明し、家族の意向を確認している。2年前に看取りが1件あり、現在、医療機関からの協力が24時間体制で可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変した時、転倒や発熱した場合の対応方法を職員で確認している。緊急時には管理者が不在でもすぐにご家族やかかりつけの病院に連絡ができるように緊急連絡先を整備している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害を想定した訓練を行っている。11月には運営推進会議の中で避難訓練を行い、地域住民の委員の方にも訓練と一緒に参加をしていただくこととしている。3日分程度の食品と水を備蓄し、反射式ストーブ、カセットコンロ、必要な消耗品などを準備している。	災害を想定した避難訓練を年2回実施し、1回目は消防団の協力で夜間を想定して行い、2回目は運営推進会議の開催時に、自治会長や区長、民生委員等の協力を得ながら実施している。食料は、3日分備蓄しており、消耗品や卓上コンロ、反射式ストーブ等も常備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応している	人生の大先輩という敬意を忘れずになれなれしい態度などは慎むように心がけている。掃除等で居室に入る際には一言声をかけるまたはノックするなどの配慮や、トイレ誘導時、入浴介助の際はさりげない声掛け、戸を閉める、タオルの使用などプライバシーに配慮している。	誇りやプライドを傷つけない声のかけ方やスピーチロック等の研修を行っている。利用者の居室に入る時にはノックする又は声をかける等、プライバシーの確保に努めている。また、トイレ誘導時等には、丁寧で穏やかな声掛けを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人に生活するうえでの選択をしていただけるようにしている。入浴日には着替えを選んでいただく、バイキングの行事を取り入れ食べたいものを選んでいただくなどしている。フリーの時間には、何をしたいかなどをお聞きしこちらからの一方的な提供にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体のある程度の日課はあるが、その方の希望やペースに沿って生活していただいている。その日の気分や体調ゆっくり起きたい方、お昼寝したい方、テレビを観たい方などおひとりおひとりに合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問理美容店に来ていただき散髪をしていただいている。ご本人にお聞きしながら季節や気温にあった衣類と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせ、可能な範囲で食事の支度に携わって頂いている。野菜の皮むきや切り方、包丁を使うのが難しい方にはお膳を並べて頂くなどお願いしている。月に一回手作りおやつの日を設け、利用者様主体で作って頂いたり、旬の食材を取り入れたり、季節や行事に合わせた献立の工夫を行っている。	献立は、職員が作成しており、出来るだけ普段家庭で食べるような献立にしている。月1回、おやつの手づくり会を企画し、利用者と職員と一緒にロールケーキやお好み焼き等を作っており、材料を切ったり、皮をむいたり、混ぜる等、楽しんで行っている。母の日のフルーツバイキングや敬老の日のちらし寿司等の行事食を利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は把握できるようにその都度記録し不測のないように心がけている。水分をなかなか取りたがらない方には飲みたいものをお聞きし無理強いしないようにしている。嚥下状態に合わせてとろみ剤やミキサーを使用しただけバランスよく安全に美味しく召し上がっていただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声掛けを行い、毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯を使用している方はその都度外して洗い、夜間は洗浄剤を使用している。ご自分でのケアが難しい方には介助で行い、状態によってはスポンジブラシも使用している。虫歯や入れ歯の調整が必要な方には訪問診療も利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、パターンの把握をしながらトイレ誘導や声掛けを行っている。9名のうち3名は布の下着を使用、5名がリハビリパッドの使用、1名は終日紙オムツを使用されている。尿意便意がありご自分でトイレに行かれる方も、そと確認を行い汚れていれば交換の促しを行い、気持ちよく過ごしていただけるようにしている。	トイレでの排泄を支援し、排泄記録や食前、食後、起床時等のタイミングを見ながら誘導している。布パンツを利用し自立している利用者が3名、リハビリパンツとパッド併用が5名、常時オムツ利用は1名となっているが、夜間のみオムツを使用している利用者が2名いる。夜間のポータブルトイレ使用はない。退院時に便失禁していた方が、こまめな誘導、支援により失敗することが無くなった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録から便が出ていない方を把握し、牛乳やヨーグルト、十分な水分摂取をしていただきなるべく自然なお通じがある様にしていく。食事にも野菜や海藻など食物繊維の豊富なものを取り入れるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後3～4名、日替わりで入浴していただいている。入浴を拒否される方はいませんが、異性の介助は拒まれる方がいるため、その方には介助者を変えて入浴していただいている。気温や室温に合わせて湯の温度を調整し、ヒーターや扇風機を使用し浴室と脱衣室の温度の差がないように工夫している。入浴後はスポーツドリンクで必ず水分補給をしていただくようにしている。	週2、3回を基本とし、1日に3、4人が午後に入浴している。入浴を嫌がる利用者はいないが、同性介助を希望する利用者には応えている。脱衣所は、寒い時はヒーターで温め、暑い時は扇風機を使用しているほか、保湿用の入浴剤を利用するなど、気持ち良く入浴していただけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝を希望される方はお部屋でゆっくり休んでいただいている。夜間に活動量が多い方には、なるべく日中に活動量を増やし夜はなるべくゆっくり休んでいただけるようにしている。居室ごとに設置されているエアコンで心地よく睡眠ができるように季節に合わせ室温を調整し配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する内容はお薬手帳や写真付きのお薬情報などをファイリングして確認している。薬剤師から、薬の種類や飲み方、軟膏の付け方や副作用について指導を頂いている。また、こちらの生活の様子をお伝えし主治医に薬の量の調整や種類の変更などをしていただくこともある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若いころに編み物などをされていた方に、編み針と毛糸をご用意し、毎日編み物をされることを楽しみにされている方がいた。歌が好きな方にはカラオケをしていただいたり、能力に合わせた塗り絵や作品づくりをしていただきながら楽しい時間を過ごしていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの保育園からお誘いを頂いた際には、決まった利用者様ではなく交替で行けるように配慮している。通院の際に家族と外食を楽しまれたり、誕生日には自宅へ1泊し家族でお祝いをされる方もいた。	近隣の保育所とは、園児が散歩途中に立ち寄り、運動会の練習等を職員と一緒に見学に出掛けたりと、相互に交流している。春には、桜の花を見にドライブに出かけている。家族と一緒に通院時に外食を楽しんでいる利用者もいる。	利用者の意向等も考慮しながら、天気の良い日は、近隣に散歩に出かけたり、事業所のベンチで外気浴をするなど、短い時間でも外出の支援を行い、気分転換やストレス発散が出来るような取り組みの充実に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少しのお金でも持っていれば安心という方には、家族の判断でご自分で少額を管理していただいている人もいます。ご自分のお金から「これで切手を1枚買ってほしい」など要望があれば購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいという希望があれば職員が手伝いながら電話をかけた、逆に家族からこちらへ電話があった際には繋いで静かな場所でお話ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テラスや居室の窓からは自然な光がたっぷり入り、散歩途中の保育園児が遊びに来た際には窓を開けて交流がしやすくなっている。ゆっくりくつろげるソファや、観葉植物や季節を感じられる作品、カレンダーで生活感を感じられるようにしている。ホールと居室ごとにエアコンと床暖房を設置し快適な温度で過ごすことができるように配慮している。	共有スペースであるホールは、天井も高く広々としている。大きなテレビが設置されており、ソファや小テーブル、椅子が置かれ、利用者は、思い思いの場所で寛いで過ごしている。床暖房やエアコン、加湿器で快適な温度・湿度に調節され、季節の飾りや利用者の作品が飾られた過ごしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の皆さんとにぎやかにテレビを観たりしながらおしゃべりを楽しむ空間と、テラス側で外の景色を眺めながらのんびりと静かに過ごせる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には介護用ベッド、エアコン、カーテンが備付となっており、寝具類や衣装ケース等はご自宅で使い慣れた馴染みのものを持ってきていただいている。箸やカップなどお気に入りのものを持ってきている方もいる。夫や息子、孫の写真を飾ったり、保育園児からの手作りのプレゼントなどを飾られている方もいる。	介護用ベッドが備え付けられ、床暖房やエアコンで温度が快適に管理されている。衣料の収納ケースや寝具等の使い慣れた物を持ち込み、落ち着いた暮らしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレには手すりが備え付けられており、それを使用しながらできるだけ自立した動きをしていただけるようにしている。トイレの場所が分かりやすいように張り紙をしたり、ベッドの位置はその方の同線を考えながら車いすでも移乗しやすいように配置している。		